

萬葉集名所部類抄

四

總紀

和書門類	三四六六二號	一二五函	一册	四册架
------	--------	------	----	-----

和書類	三四六六二號	四册架	一二五函	一册架
-----	--------	-----	------	-----

止(四册架)

内閣文庫	
番號	和 34662
冊數	4 (4)
函號	200 208



A 1 2 3 4 5 6 M 8 9 10 11 12 13 14 15 B 17 18 19

Kodak Gray Scale



© Kodak, 2007 TM: Kodak

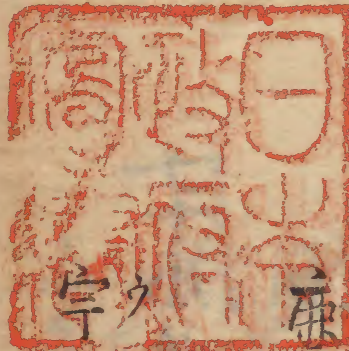


綴じ部(喉部分)の文字等が開きが不鮮明な場所あり

編脩地志
備用典籍

萬葉集名所部類抄下之二目錄

播磨守國



南海

同野

同河

藤井浦

藤江浦

名木隅

舟瀬濱

明石灘

同門

十日濱

向浦

家鴻

辛何鴻

津田細江

明浮

自芝浦

鏑摩江

同河

室浦

川鳴島

麻兒鴻

絶等寸山

名欲山

表作因

守名手本

備前國

小嶋

牛窓

比治奇灘

大嶋鳴門

備後國

鞆浦

神島

磯間浦

且速浦

安藝國

長門島

日浦

阿胡海

佐伯山

周防國

磐石山

麻里布浦

祝嶋

早可太大嶋

長門國

真津借島

目録下之三

紀伊國

岩代置

日濱

同野

同岸

真土山

加信山

妹背山

紀河

平

赤麻山

小為山

莫越山

大島山

殺目山

三穂巖

平

今城

同家

同山

阿古根浦

左目麻浦

同野

玉浦

若浦

妹島

平

之形見浦

玉浦

三熊飛浦

白神磯

魚牛海 シロウラ

坂上 サカノヘ

櫻田 サクラ

斗飽等濱 アキラ

名浦 ナタカ

淡路國 アワジ

野鴻 ノニ

浅野 アサ

阿波國 アワ

阿波山 アワ

阿波道 アワ

夙莫濱 スモ

八十隅坂 ヤソスミ

新市方 アエチ

子總濱 タツチ

飛幡浦 トハタ

奴島 ヌ

百松帆浦 ヒヤクマツ

半菰代坂 ヒヤクモ

哭沢社 ナキザ

糸方湊 イトカタ

酢蛾嶋 スガ

牟婁江 ムロ

大我島 オホカ

紀國 キ

飽浦 アキラ

夏身浦 ナツミ

那賀郡曝井 ナカ

淡路島 アワジ

讃波國 サマ

狹岑島 サマ

佐見山 サミ

網浦 アミ

伊豫國 イゾ

熱田津 ナリ

伊予宮家 イヨ

射狹庭置草飽田津 イサ

土佐國 ツク

大崎神小濱 オホサキ

筑前國 ツク

志加濱 シカ

何浦 ナニ

同山 ドウ

也良崎 ヤラ

可文布江 カフ

粉海 コ

大浦田沼 オホウラ

角崎道門 ツク

耳韓泊 ミミ

能言浦 ノコ

可也山 カヤ

城山 キ

大城山

水城

荒津濱

三竹立杜

草加江

向海

大形山

香椎沼

名児山

日向河

日向崎

引津

鼻鏡山

朽網山

本綿山

同子濱

弓極山

企取濱

竹立縫嶋

豊前國

肥後國

谷石無溪

肥前國

松浦海鼻向川

領申麻毛山

肥後國

水島

野坂浦

玉崎山

日向池

高子穂心嶽

薩六國

薩六迫門

壹波國

鼻吉之嶋

伊波多野

目錄下之二

對馬國

對馬渡

淺茅山

竹敷浦

上方山

未勘國

待路小野

待路池

結八河

出入河

百草

納野

江林

小崎神

越菅原

取石池

矢野神山

卷來山

入野

涼津

能登香山

磯邊山

潤和河

末原野

味鎌塩津

都賀野

渚沙入江

誰葉野

取替河

惡木山

百草

子難懈

真若浦

鴻熊山

東坂

木綿間山

小沼田

點路之水

息長遠智

息長河

櫛津

押坐小野

伊久理杜

玉浦

可良浦

弟十四卷東歌之中

武賀野

須受根

手兒喚坂

伎波於久里

二百

左勢山

遊布麻山

胡奈白根

赤見山

木本山

欲良山

兒毛知山

伊波保呂

安波平呂

安波可渾

瀨川

長浦倚

白山

青根

對馬根

阿部田

水久若野

等夜野

摺山

同浦

上 此路の志はハタされハ御井もあはれあはれ
清き〜〜あはれあはれ乃浦ノ毎もあはれ清き

始末畧

家傳

母比真人並六郎

四

臣女 ちよもあはれ〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き

あはれ〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き
あはれ〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き
あはれ〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き
あはれ〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き

名考ト之三二

あはれ〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き
あはれ〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き
あはれ〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き
あはれ〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き
あはれ〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き
あはれ〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き
あはれ〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き
あはれ〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き
あはれ〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き
あはれ〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き

同

十五 亦人カ〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き
清き〜〜乃浦ノ毎もあはれ清き

始末畧

六 やまのちら乃吉使乃小嶋をさくゆつうく乃史の嶋に
牛窓

十一 うまの乃史の嶋に井をさくきつらうく乃史の嶋に

もく神田の嶋にうく乃史の嶋に

けはまをさくきつらうく乃史の嶋に

ては母をさくきつらうく乃史の嶋に

くくちをさくきつらうく乃史の嶋に

ぬくくちをさくきつらうく乃史の嶋に

くくちをさくきつらうく乃史の嶋に

比治音灘

比治音ノナガト同ト云リ或曰播六団ト私案ニ西國
海路ツキタハ六ノニ通カ

十七 まの乃史の嶋に井をさくきつらうく乃史の嶋に

大嶋の嶋に

十五 らの乃史の嶋に井をさくきつらうく乃史の嶋に

初まの嶋に

三 伎後國

鞆浦 大納言旅人

三 島の浦乃後乃史の嶋に井をさくきつらうく乃史の嶋に

舟

七 島の浦乃後乃史の嶋に井をさくきつらうく乃史の嶋に

七 行て又よりんまほらたのりり差かてる 鞆乃浦

卅 神宮 破河浦

他国ニ入ルコト不_レ然万葉十三_ノ前ノ向_ニモ 佐後国神宮ト云々

十五 月とあまをほららるるのひり乃らりし舟あすのひり

乱速浦

十二 月とあまをほららるるのひり乃らりし舟あすのひり

安藝之國

長門鴻

万葉十五ニ長門鴻長門浦共ニ當国ト云_レ工タリ 諸書 皆長門国ニ入ルハ只名ニ入_レ付_レル_ニ欽

十五 月とあまをほららるるのひり乃らりし舟あすのひり

長門浦 阿胡海

十三 月とあまをほららるるのひり乃らりし舟あすのひり

おなまきしとちくら橋乃た和らりし舟あすのひり

橋乃らあまをほららるるのひり乃らりし舟あすのひり

はらられいあまの浦乃あすのひり乃らりし舟あすのひり

なまあまをほららるるのひり乃らりし舟あすのひり

月とあまをほららるるのひり乃らりし舟あすのひり

月とあまをほららるるのひり乃らりし舟あすのひり

十三 月とあまをほららるるのひり乃らりし舟あすのひり

はあまの海乃國ナ定_レし_ニま_レ父_ノ思_ハ入_レの國ナ上

あ人乃播乃乃河乃あまをほららるるのひり乃らりし舟あすのひり

つれづれと
縛リタム心
符ニ麻猪ヲ弓夫ニテカユルコトニ

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~

加位も

是ニツキトヨムハキヲ加文字ヲトニツケテノカク
ヨミオシリ今更不可改歟

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

妹の首の繩阿 シヨ

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

~~~~~  
~~~~~  
~~~~~

辛巳勢の日記 一板門人足

辛







七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 玉の浦

七 けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも

日所 白神殿

九 けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも

白牛海 白海

地 けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも

七 けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも

九 けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも

風葉屋

九 けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも

斗 代坂

九 けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも

大我野

九 けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも

坂上

九 けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも

八十隅坂 或云非角

刑部寺

三 けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも

哭沢社

松隈女 一本人丸

二 けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも けりしめをも

紀園

合村

斗





三

Handwritten text in cursive style, likely a list or record.

百

Handwritten text in cursive style, continuing the list or record.

六

Handwritten text in cursive style.

百

松尾浦

合村

十

Handwritten text in cursive style.

十

Handwritten text in cursive style.

十二

Handwritten text in cursive style.

漢語

可

三

Handwritten text in cursive style.

可

六

Handwritten text in cursive style.

天子ノイリ物奉ル

有款

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive style.

Handwritten text in cursive script, likely a list or record of items.

校今鴻 掃本丸

備後國

十二箇  
十五  
十五  
Handwritten text in cursive script, including numbers and characters.

河波嶋

才

河波公

阿波國

Handwritten text in cursive script, continuing the list or record.



~~~~~

~~~~~ 細乃浦乃 海を ぬらぬ 掃の思

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

細浦

軍

~~~~~

右乃~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

~~~~~

向所

十中... 伊豫國

伊豫國

鮑田津

額田

塩時ヨリナニ

一... 射候所

伊予... 日土河

射候所

三... 鮑田津

... 鮑田津

... 鮑田津

... 鮑田津

... 鮑田津

... 鮑田津

鮑田津 鮑田津共ニキタツトヨムニヒナリ

三... 鮑田津

... 鮑田津

大崎神小濱

六... 鮑田津

草



十六角のついでに...

真韓浦 能言浦

十五のついでに...

十五のついでに...

可也

十五のついでに...

城山 葛井連大成

十四のついでに...

可也

十五のついでに...

真韓浦

大城山 板山

八のついでに...

可也

十のついでに...

大細江

四のついでに...

香椎 可也

六のついでに...

小真浦 板山

六のついでに...

名取

梅上

六 大に貴しきものなり初めは  
なまなまのこころを  
めまのこころ

水城

天智天皇陽宇ツクニニ大堤ヲツキテ水ヲ貯フ  
名ツケテ水城ト云

大納言旅人

六 水城乃上ノ瀨乃  
ちちち

八 水城乃上ノ瀨乃  
水城

百

命

七 命乃上ノ瀨乃  
命乃上ノ瀨乃

白

白

十三 命乃上ノ瀨乃  
命乃上ノ瀨乃

引

引

七 命乃上ノ瀨乃

百





十一 國のまきら長瀬のりしりあゆむの地を  
同の溪

七 國のまきら長瀬のりしりあゆむの地を  
何の地ん

企波源 柿木丸

十二 國のまきら長瀬のりしりあゆむの地を  
何の地ん

月長瀬 三ノ瀬

十三 國のまきら長瀬のりしりあゆむの地を  
何の地ん

十三 國のまきら長瀬のりしりあゆむの地を  
何の地ん

同池

十六 國のまきら長瀬のりしりあゆむの地を  
何の地ん

中後園

倉毎瀬 柿木丸

九 國のまきら長瀬のりしりあゆむの地を  
何の地ん

肥前國

松浦海

十五 國のまきら長瀬のりしりあゆむの地を  
何の地ん

百平 松浦河

五 國のまきら長瀬のりしりあゆむの地を  
何の地ん

五 國のまきら長瀬のりしりあゆむの地を  
何の地ん



五 松浦ハミツノ神印モ后新羅モウモカシク  
四 松浦ハミツノ神印モ后新羅モウモカシク  
三 松浦ハミツノ神印モ后新羅モウモカシク  
二 松浦ハミツノ神印モ后新羅モウモカシク  
一 松浦ハミツノ神印モ后新羅モウモカシク

今松浦より下訖也

三

五 松浦ハミツノ神印モ后新羅モウモカシク

四 松浦ハミツノ神印モ后新羅モウモカシク

白浦

三 松浦ハミツノ神印モ后新羅モウモカシク

領中庵也

二 松浦ハミツノ神印モ后新羅モウモカシク

白

一 松浦ハミツノ神印モ后新羅モウモカシク

松浦ハミツノ神印モ后新羅モウモカシク

白

三



肥後國

水島

長田

三 國 一 部 被 たる 水 島 長 田 乃 水 島

水 島 浦 水 島 回

三 草 小 郡 乃 浦 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島

水 島 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島

水 島 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島

水 島 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島

水 島 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島

水 島 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島

日向國

子 穂 嶽

家 持

廿 平 下 面 乃 戸 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島

乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島

乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島

水 島 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島 乃 水 島



十五 舟のつるはしをのぼりていれ乃西へりていり

竹敷浦

十五 舟の浦まのふかきにおちてくろくろを敷くはちゆめ

十五 舟のまのむらさひの擗きあんなるく舟をいほりていん

上方山

十五 舟のまのくろくろの紅乃舟のちかちかすまをいりて

舟のつるはし

未勘國

狩路小野

柿本丸

三 やすきまのつるはしをのぼりていれ乃西へりていり

あさきまのつるはしをのぼりていれ乃西へりていり

あさきまのつるはしをのぼりていれ乃西へりていり

あさきまのつるはしをのぼりていれ乃西へりていり

あさきまのつるはしをのぼりていれ乃西へりていり

あさきまのつるはしをのぼりていれ乃西へりていり

初志小長官子 遊獵路池之時少つら或説

うらちの池ハ加賀乃國子有はるきつら長

ほろこ子をまきく小玉は扱て持て取りんといふ  
おちゆる上古まきうの扱て取子糸乃所も持  
踏乃小形を中沙をまきり係る用まき係

物路池 子細上ニイリ

十二をいへる乃池をいへる乃まきり係る用まき係

結八河

七 乃乃紐をいへる乃まきり係る用まき係

七 乃乃紐ゆきん河内をいへる乃まきり係る用まき係

出入河

七 乃乃紐ゆきん河内をいへる乃まきり係る用まき係

人ニ悉ラル人棄タル馬ハツクト

**百七十搔上拷場**

七 乃乃紐をいへる乃まきり係る用まき係

納也 人丸

七 乃乃紐をいへる乃まきり係る用まき係

江林

河

七 乃乃紐をいへる乃まきり係る用まき係

小治神

河

七 乃乃紐をいへる乃まきり係る用まき係







信熊山

十二 山崎の松原の松の葉を採りて酒に漬けて飲めば長生を得べし

東坂

十三 山崎の松原の松の葉を採りて酒に漬けて飲めば長生を得べし

本綿田

十四 山崎の松原の松の葉を採りて酒に漬けて飲めば長生を得べし

小沼田 新路之水

十五 山崎の松原の松の葉を採りて酒に漬けて飲めば長生を得べし

十六 山崎の松原の松の葉を採りて酒に漬けて飲めば長生を得べし

十七 山崎の松原の松の葉を採りて酒に漬けて飲めば長生を得べし

山崎の松原

息長遠智

十八 山崎の松原の松の葉を採りて酒に漬けて飲めば長生を得べし

あまのくもよりわがちから来たまはるるくもよりわがちから来たまはるる

くもよりわがちから来たまはるるくもよりわがちから来たまはるる

息長遠

十九 山崎の松原の松の葉を採りて酒に漬けて飲めば長生を得べし

二十 山崎の松原

二十一 山崎の松原の松の葉を採りて酒に漬けて飲めば長生を得べし

くもよりわがちから来たまはるるくもよりわがちから来たまはるる

くもよりわがちから来たまはるるくもよりわがちから来たまはるる

妻三十九人  
くまはくろくろくわ

操津槍橋

或云伊予或云美濃兩説皆不足信用

十六刺さぐらほらせりはらおほのむねらうらんまのあひん

押さ少船

十七其酒をたれ少船にあらぬりもはるあひぬ

キヤシ  
くやいふあひぬのすくちあはるるあひぬ

よまひふあひぬのすくちあはるるあひぬ

らぬるるむらさきはを少船にあらぬりもはるあひぬ

よまひふあひぬのすくちあはるるあひぬ

伊久野社

名考三十一

十七のりうあひぬらばはらあひぬ今らんまのあひん

玉浦 総列ニ有同名

十五ぬらあひぬあひぬあひぬあひぬあひぬあひぬ

十五もの浦らあひぬあひぬあひぬあひぬあひぬ

可良浦

十五真つらあひぬあひぬあひぬあひぬあひぬ

右乃所万葉十五巻を携へし海路

よまひふあひぬのすくちあはるるあひぬ

後世はらあひぬあひぬあひぬあひぬあひぬ

りのり

万葉集十卷東歌之中

於武賀野

須受根

女児嘆坂

東路乃てと乃と入坂越る者いふもわんもりりる

とゆゆ乃てと乃と入坂越る者いふもわんもりりる

伎波於久置

十心乃と乃と入坂越る者いふもわんもりりる

二章 在奈於良野

とゆゆ乃と乃と入坂越る者いふもわんもりりる

在努心

とゆゆ乃と乃と入坂越る者いふもわんもりりる

在布心

とゆゆ乃と乃と入坂越る者いふもわんもりりる

胡奈尔良根

とゆゆ乃と乃と入坂越る者いふもわんもりりる

亦見心

とゆゆ乃と乃と入坂越る者いふもわんもりりる



あつらひのつらきものなるを  
新馬松

はまの松のつらきものなるを  
河原田河

はまの松のつらきものなるを  
水久松

はまの松のつらきものなるを  
等夜松

はまの松のつらきものなるを  
横山 武蔵ニ同名有

いんげんころ相かんよりの松のつらきものなるを

# 二鼻

或曰非名所

廣く馬のつらきものなるを

小林 万葉一本

小林のつらきものなるを

新馬堤 上三共上三ノ河内也

はまの松のつらきものなるを

河須可河 大和ニ同名アリ

はまの松のつらきものなるを

はまの松のつらきものなるを

須沙入江 上ニモ見エタリ

あらしのほろよちの入らぬいづれもあまのくさし

由比浮 越前ニ同名アリ

あらしのほろよちの入らぬいづれもあまのくさし

味鎌浮 上ニモ見エタリ 同所歟

十四あらしのほろよちの入らぬいづれもあまのくさし

句可家渡

十四あらしのほろよちの入らぬいづれもあまのくさし

松浦 讃波ニ同名アリ

あらしのほろよちの入らぬいづれもあまのくさし

台より下之一廿九

許我渡 或曰下総國

十四あらしのほろよちの入らぬいづれもあまのくさし

古あらしのほろよちの入らぬいづれもあまのくさし

二百一 はまのあまのくさし

あらしのほろよちの入らぬいづれもあまのくさし

小笠原浦

あらしのほろよちの入らぬいづれもあまのくさし

宇良浦

あらしのほろよちの入らぬいづれもあまのくさし

河自

十四あやかりくまのきりしめしむらさきもはるかなるはるかなる

羨夜自品園

十五ささげのさきくさくさるる花もささげのさきくさくさるる

已上四十三首は枝集の國未勅乃由なる

早下りくさくさるるささげのさきくさくさるる

外

潮干山

十六まきもれくさくさるる花もまきもれくさくさるる

ささげのさきくさくさるる花もささげのさきくさくさるる

無常乃くさくさるる

多摩川三年

フカウノサト 無何有之郷 蘇狐能心

十七ささげのさきくさくさるる花もささげのさきくさくさるる

ささげのさきくさくさるる花もささげのさきくさくさるる

莊子乃くさくさるる

神樂良小野

十六天もささげのさきくさくさるる花もささげのさきくさくさるる

けさくさくさるる花もささげのさきくさくさるる

安河原 柿むら丸

ささげのさきくさくさるる花もささげのさきくさくさるる

ささげのさきくさくさるる花もささげのさきくさくさるる

水無河

久々の天はふるりしと水は流りしと  
是又その川はふるりし

十六天の雨はふるりしと水は流りしと

雪はふるりしと水は流りしと

或説く名所とていふはふるりしと

日守縄丸の館は宴するの白雲ありしと

はらふるりしと水は流りしと

之奈布勢心

名所下之二平

三つはふるりしと水は流りしと

水はふるりしと水は流りしと

水はふるりしと水は流りしと

水はふるりしと水は流りしと

水はふるりしと水は流りしと

水はふるりしと水は流りしと

水はふるりしと水は流りしと

水はふるりしと水は流りしと

和伎朝能里

五つはふるりしと水は流りしと



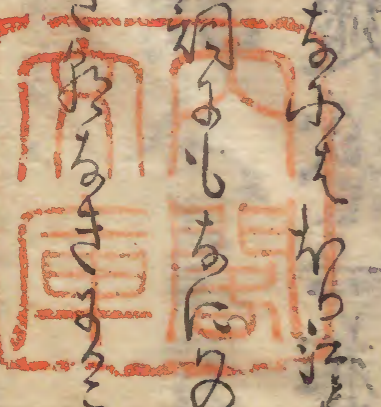
是山船約し女たち松浦乃川をらめり  
へ乃里の我家乃里と名所あり  
こまきく乃里をらめり

サキモリノ  
崎の堀江 家持

廿崎の堀江の舟楫よりなる

けらる天平勝宝七年後河乃國乃防人  
磯前まほむく乃防くれうよをらめり  
長うの及奇したれいするめり  
あり江とそ有やうよをらめり

乃宇國東乃兵乃けきをめり  
はらりて乃國乃寇をめり  
ありのほくめり  
守るのめれハ崎より乃軍兵乃難波  
乃佳ありて堀江より發船して行時ぬ  
ーくんやわらりてめり  
崎より乃防人乃名堀江の  
りも掲受らり長うの乃  
めり  
めり  
めり



ゆゑなりとあり

下河邊氏某撰

下河邊氏某撰  
江畔火草出 間有客以公  
鷓為保社 獨道遙歌朴伐  
良材而築室 之徒無求者  
安又投入詞 汝採廉寤而誤  
得實極無求 食飽人宵風  
日以為其少 辭不足樂也

卷之二十三

江畔火草出 間有客以公  
鷓為保社 獨道遙歌朴伐  
良材而築室 之徒無求者  
安又投入詞 汝採廉寤而誤  
得實極無求 食飽人宵風  
日以為其少 辭不足樂也

好事者必欲草率從括而求  
祇亦其所感之道德地之然  
公也助本生道其監之禮  
然先嘗見搜括海之海底鯨骨  
明月珠而無遠其惟育万  
葉集偶從網乃拾其若

所之歎彼集出世亦如經  
春秋今已久所以其辭難  
曉者儘多故既求加鞫言打  
秋枝畫沙之才子纂系而開  
極以為有助同志也  
是所謂推己及人者乎



万治己亥秋八月下旬

雲水祖冲拔

嘉永七年孟春吉日

兒玉氏藏板

